

經 濟 學 研 究 科

研究指導概要

博士前期課程・経済学専攻

1. 各セメスタの指導内容（モデルケース）

1 セメスタ

- ・主・副指導教授との協議に基づき、研究テーマ仮設定。
- ・論文題目に合わせ、基礎科目、専門科目の履修指導を受ける。
- ・研究計画の作成を開始し、調査、実験等の研究方法論を修得する。

2 セメスタ

- ・指導教員と協議しつつ研究計画を完成させ、論文・データなどのサーヴェイを進展させる。
- ・確定した研究テーマについて、論文発表会にて計画を発表（10－12月）。

3 セメスタ

- ・研究計画に基づき、指導教員の指導に基づき分析・考察を深める。
- ・可能であれば、研究の主要部分について学会発表、学会誌投稿、大学院紀要投稿を行う。
- ・論文発表会にて論文の進捗状況を発表（5－7月）。

4 セメスタ

- ・可能であれば、研究の主要部分について学会発表、学会誌投稿を行う。
- ・修士論文執筆、取りまとめ。
- ・論文発表会にて修士論文の概要を発表（12月）
- ・修士論文を提出、審査。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等（モデルケース）

第2セメスタに、研究計画を発表（10－12月）

第3セメスタに、研究の進捗状況を発表（5－7月）

第4セメスタに、修士論文の概要を発表（12月）

修士課程・公民連携専攻

1. 各セメスタの指導内容

1 セメスタ

- ・1セメスタにおいて、主・副指導教授との協議に基づき、研究テーマを仮設定する。
- ・研究テーマに合わせて、履修する授業科目の履修指導を受け、研究を実施する基礎的能力を高める。

2 セメスタ

- ・研究テーマに合わせて、履修する授業科目の履修指導を受け、研究を実施する基礎的能力を高める。

3 セメスタ

- ・主・副指導教員と協議しつつ研究計画を制作し、分析・考察を進める。

4 セメスタ

- ・論文報告会等を機会として活用しつつ、具体的に論文執筆を進める。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

第4セメスタの開始後速やかに中間報告会を開催する。

第4セメスタの終了前に最終報告会を開催する。

中間報告会、最終報告会には教員のほか院生も参加し、幅広い観点からの意見を反映できるようにするものとする。

博士後期課程

1. 各セメスタの指導内容（モデルケース）

1 セメスタ

- ・主・副指導教授との協議に基づき、研究テーマ仮設定
- ・研究計画の作成開始

2 セメスタ

- ・研究テーマ確定、研究計画の策定、論文発表会にて計画発表（10－12月）。

3 セメスタ

- ・研究の主要部分1を取りまとめ、学会発表、ジャーナル誌投稿
- ・論文発表会にて論文の一部を発表（5－7月）。

4 セメスタ

- ・研究の主要部分2を取りまとめ、学会発表、ジャーナル誌投稿
- ・論文発表会にて研究の進捗状況及び論文の一部を発表（10－12月）。

5 セメスタ

- ・研究の主要部分3を取りまとめ、学会発表、ジャーナル誌投稿
- ・研究の主要部分のいずれかについて、大学院紀要に投稿。
- ・博士論文報告会にて論文の全体像を発表（5－7月）。

6月末までに主指導教授が事前審査委員会設置申請書を研究科委員会に提出

7月の研究科委員会で事前審査委員会設置を審議

6 セメスタ

10月の研究科委員会で事前審査報告

- ・博士論文をとりまとめ、提出
- ・博士論文を審査、（副査を1名以上追加）

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等（モデルケース）

第2セメスタに、研究計画を発表（10－12月）

第4セメスタに、研究の進捗状況及び論文の一部を発表（10－12月）。

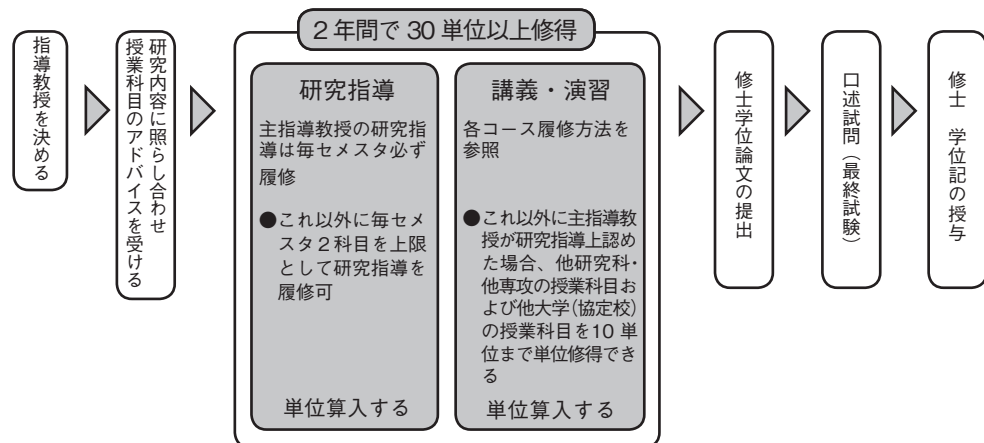
第5セメスタに、博士論文報告会にて論文の全体像を発表（5－7月）。

（第5セメスタの博士論文報告会は、博士論文の提出要件）

経済学専攻

前期課程

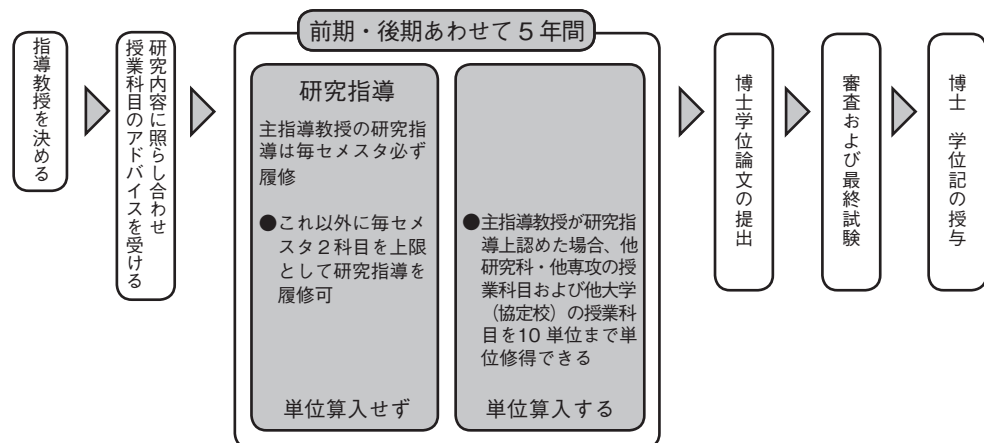
履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える

後期課程

履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える

経済学専攻

博士前期課程〔経済学コース〕

		授業科目・研究指導						講義・演習の別	職 名	担当教員	備考
		2014年度以前 入学生適用	単位	2015年度以降 入学生適用	単位	相 手 ナ ン バ ン グ	学期				
基礎科目	上級ミクロ経済学	4	ミクロ経済学A ミクロ経済学B	2 2	ECT601 ECT602	春秋	講義	教授	佐々木 啓 介		
	上級マクロ経済学	4	マクロ経済学A マクロ経済学B	2 2	ECT603 ECT604	春秋	講義	教授	斎 藤 孝		
	統計・計量経済学	4	統計・計量経済学A 統計・計量経済学B	2 2	ECS601 ECS602	春秋	講義	教授	門 間 麻 紀		
専門科目	理論・政策領域	財 政 学	4	財 政 学 A 財 政 学 B	2 2	PFP601 PFP602	春秋	講義	教授	大 野 裕 之	
		金 融 論	4	金 融 論 A 金 融 論 B	2 2	MOF601 MOF602		講義			本年度休講
		産 業 組 織	4	産 業 組 織 A 産 業 組 織 B	2 2	ECP601 ECP602	春秋	講義	教授	吉 田 明 子	
		日 本 経 済 史	4	日 本 経 済 史 A 日 本 経 済 史 B	2 2	ECH601 ECH602	春秋	講義	准教授	島 西 智 輝	
		西 欧 経 済 史	4	西 欧 経 済 史 A 西 欧 経 済 史 B	2 2	ECH603 ECH604	春秋	講義	教授	道 重 一 郎	
		経 済 発 展 論	4	経 済 発 展 論 A 経 済 発 展 論 B	2 2	ECP603 ECP604		講義			本年度休講
	グローバル・エコノミー領域	国 際 経 済	4	国 際 経 済 A 国 際 経 済 B	2 2	ECP605 ECP606		講義			本年度休講
		開 発 経 済 論	4	開 発 経 済 論 A 開 発 経 済 論 B	2 2	ECP607 ECP608	春秋	講義	教授	郝 仁 平	
		ア ジ ア 経 済	4	ア ジ ア 経 済 A ア ジ ア 経 済 B	2 2	ARS601 ARS602	春秋	講義	教授	中 川 利 香	
		国 際 金 融 論	4	国 際 金 融 論 A 国 際 金 融 論 B	2 2	MOF603 MOF604	春秋	講義	教授	棟 近 みどり	
		金融システム論	4	金融システム論A 金融システム論B	2 2	MOF605 MOF606	春秋	講義	非常勤講師	益 田 安 良	
		中 小 企 業 論	4	中 小 企 業 論 A 中 小 企 業 論 B	2 2	ECP609 ECP610	春秋	講義	教授	安 田 武 彦	
	産業・金融領域	情 報 経 済	4	情 報 経 済 A 情 報 経 済 B	2 2	ECT605 ECT606	春秋	講義	教授	城 川 俊 一	
		産業クラスター論	4	産業クラスター論A 産業クラスター論B	2 2	ECP611 ECP612		講義			本年度休講
		企 業 金 融 論	4	企 業 金 融 論 A 企 業 金 融 論 B	2 2	MOF607 MOF608		講義			本年度休講
		社会経済システム	4	社会経済システムA 社会経済システムB	2 2	ECP613 ECP614	春秋	講義	教授	浅 野 清	
		労 働 経 済	4	労 働 経 済 A 労 働 経 済 B	2 2	PFP603 PFP604	春秋	講義	教授	今 村 肇	
		環 境 経 済	4	環 境 経 済 A 環 境 経 済 B	2 2	ECP615 ECP616	春秋	講義	教授(兼担)	小 川 芳 樹	
	生活経済領域	社 会 保 障	4	社 会 保 障 A 社 会 保 障 B	2 2	PFP605 PFP606	春秋	講義	准教授	川 瀬 晃 弘	
		社 会 経 済 史	4	社 会 経 済 史 A 社 会 経 済 史 B	2 2	ECH605 ECH606		講義			本年度休講
	研究指導	研 究 指 導 I	4	研 究 指 導 I A 研 究 指 導 I B	2 2	REG601 REG602	春秋		教授	佐々木 啓 介	
		研 究 指 導 II	4	研 究 指 導 II A 研 究 指 導 II B	2 2	REG603 REG604	春秋		教授	斎 藤 孝	

経済学

	授業科目・研究指導						講義・演習の別	職 名	担当教員	備考
	2014年度以前 入学生適用	単位	2015年度以降 入学生適用	単位	相 ナシ ナン	学期				
研究指導	研究指導Ⅲ	4	研究指導Ⅲ A	2	REG605	春		教 授	門 間 麻 紀	
			研究指導Ⅲ B	2	REG606	秋				
	研究指導Ⅳ	4	研究指導Ⅳ A	2	REG607	春		准教授	隅 田 和 人	
			研究指導Ⅳ B	2	REG608	秋				
	研究指導Ⅴ	4	研究指導Ⅴ A	2	REG609	春		教 授	大 野 裕 之	
			研究指導Ⅴ B	2	REG610	秋				
	研究指導Ⅵ	4	研究指導Ⅵ A	2	REG611	春		教 授	竹 澤 康 子	
			研究指導Ⅵ B	2	REG612	秋				
	研究指導Ⅶ	4	研究指導Ⅶ A	2	REG613	春		教 授	吉 田 明 子	
			研究指導Ⅶ B	2	REG614	秋				
	研究指導Ⅷ	4	研究指導Ⅷ A	2	REG615	春		准教授	島 西 智 輝	
			研究指導Ⅷ B	2	REG616	秋				
	研究指導Ⅸ	4	研究指導Ⅸ A	2	REG617					本年度休講
			研究指導Ⅸ B	2	REG618					
	研究指導Ⅹ	4	研究指導Ⅹ A	2	REG619					本年度休講
			研究指導Ⅹ B	2	REG620					
	研究指導Ⅺ	4	研究指導Ⅺ A	2	REG621	春		教 授	中 川 利 香	
			研究指導Ⅺ B	2	REG622	秋				
	研究指導Ⅻ	4	研究指導Ⅻ A	2	REG623	春		教 授	郝 仁 平	
			研究指導Ⅻ B	2	REG624	秋				
	研究指導Ⅼ	4	研究指導Ⅼ A	2	REG625	春		教 授	道 重 一 郎	
			研究指導Ⅼ B	2	REG626	秋				
	研究指導Ⅽ	4	研究指導Ⅽ A	2	REG627	春		教 授	棟 近 みどり	
			研究指導Ⅽ B	2	REG628	秋				
	研究指導Ⅾ	4	研究指導Ⅾ A	2	REG629					本年度休講
			研究指導Ⅾ B	2	REG630					
	研究指導Ⅿ	4	研究指導Ⅿ A	2	REG631	春		教 授	安 田 武 彦	
			研究指導Ⅿ B	2	REG632	秋				
	研究指導ⅰ	4	研究指導ⅰ A	2	REG633	春		教 授	城 川 俊 一	
			研究指導ⅰ B	2	REG634	秋				
	研究指導ⅱ	4	研究指導ⅱ A	2	REG635	春		教 授	浅 野 清	
			研究指導ⅱ B	2	REG636	秋				
	研究指導ⅲ	4	研究指導ⅲ A	2	REG637	春		教 授	今 村 肇	
			研究指導ⅲ B	2	REG638	秋				
	研究指導ⅳ	4	研究指導ⅳ A	2	REG639	春		准教授	川 瀬 晃 弘	
			研究指導ⅳ B	2	REG640	秋				
	研究指導ⅴ	4	研究指導ⅴ A	2	REG641	春		教授(兼任)	小 川 芳 樹	2015年度以前入 学生のみ履修可
			研究指導ⅴ B	2	REG642	秋				

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ（年度）毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・単位修得することができる。
- 主指導教授の「研究指導」は、毎セメスタ（年度）必ず履修すること。修得した単位は、在学中8単位まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了要件として認められる。5セメスタ以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
- 副指導教授の「研究指導」は、在学中2セメスタ以上履修すること。（2014年度以前入学生は在学中1回以上履修すること）。ただし、副指導教授の「研究指導」の単位のうち修了要件の単位への算入は4単位を上限とする。
- 「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる（よって、同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない）。
- 「領域」は履修の目安であり、複数の領域にまたがって授業科目を履修することはさしつかえない。
- 経済学専攻内他コースの授業科目も履修することができる。この場合、事前に科目担当者の許可を得ること。この単位は、修了要件の単位に充当する。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得し、修了単位に充当することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得することができる。2回目以降の履修・聴講は、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

博士前期課程〔環境学コース〕

	授業科目・研究指導						講義・演習の別	職名	担当教員	備考
	2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	相 関 ナバ リ ン グ	学期				
基礎科目	環 境 学	2	環 境 学	2	EPS601	春	講 義	教 授	鈴 木 孝 弘	
	上級ミクロ経済学	4	ミクロ経済学 A	2	ECT601	春	講 義	教 授	佐々木 啓 介	
	統計・計量経済学	4	ミクロ経済学 B	2	ECT602	秋	講 義	教 授	門 間 麻 紀	
専門科目	環 境 経 済 学	4	統計・計量経済学 A	2	ECS601	春	講 義	教 授	門 間 麻 紀	
			統計・計量経済学 B	2	ECS602	秋	講 義	教 授	門 間 麻 紀	
	環 境 経 済 学	4	環 境 経 済 学 A	2	ECP601	春	講 義	教授(兼任)	小 川 芳 樹	
			環 境 経 済 学 B	2	ECP602	秋	講 義	教授(兼任)	小 川 芳 樹	
	廃 棄 物 政 策	4	廃 棄 物 政 策 A	2	EPS602	春	講 義	教 授	山 谷 修 作	
			廃 棄 物 政 策 B	2	EPS603	秋	講 義	教 授	山 谷 修 作	
	環 境 と 会 計	4	環 境 と 会 計 A	2	ACC601	春	講 義	客員教授	柳 裕 治	
			環 境 と 会 計 B	2	ACC602	秋	講 義	客員教授	柳 裕 治	
	環 境 税 特 論	2	環 境 税 特 論	2	EPS604	春	講 義	教授(兼任)	和 田 尚 久	
	公 害 対 策 論	4	公 害 対 策 論 A	2	EPS605	春	講 義	教 授	鈴 木 孝 弘	
研究指導			公 害 対 策 論 B	2	EPS606	秋	講 義	教 授	鈴 木 孝 弘	
	環 境 学 特 論	2	環 境 学 特 論	2	EPS607	秋	講 義	教 授	鈴 木 孝 弘	
	環 境 評 価 論	4	環 境 評 価 論 A	2	EPS608	春	講 義	教 授	清 田 佳 美	
			環 境 評 価 論 B	2	EPS609	秋	講 義	教 授	清 田 佳 美	
	財 政 学	4	財 政 学 A	2	PFP601	春	講 義	教 授	大 野 裕 之	
			財 政 学 B	2	PFP602	秋	講 義	教 授	大 野 裕 之	
	研 究 指 導 I	4	研 究 指 導 I A	2	REG601	春		教 授	鈴 木 孝 弘	
			研 究 指 導 I B	2	REG602	秋		教 授	鈴 木 孝 弘	
	研 究 指 導 II	4	研 究 指 導 II A	2	REG603	春		教授(兼任)	小 川 芳 樹	2015年度以前入学生のみ履修可
			研 究 指 導 II B	2	REG604	秋		教授(兼任)	小 川 芳 樹	2015年度以前入学生のみ履修可
研究指導	研 究 指 導 III	4	研 究 指 導 III A	2	REG605	春		教 授	山 谷 修 作	
			研 究 指 導 III B	2	REG606	秋		教 授	山 谷 修 作	
	研 究 指 導 IV	4	研 究 指 導 IV A	2	REG607	春		客員教授	柳 裕 治	
			研 究 指 導 IV B	2	REG608	秋		客員教授	柳 裕 治	
	研 究 指 導 V	4	研 究 指 導 V A	2	REG609	春		教 授	清 田 佳 美	
			研 究 指 導 V B	2	REG610	秋		教 授	清 田 佳 美	
研究指導	研 究 指 導 VI	4	研 究 指 導 VI A	2	REG611					本年度休講
			研 究 指 導 VI B	2	REG612					

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ（年度）毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・単位修得することができる。
- 主指導教授の「研究指導」は、毎セメスタ（年度）必ず履修すること。修得した単位は、在学中8単位まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了要件として認められる。5セメスタ以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。
- 副指導教授の「研究指導」は、在学中2セメスタ以上履修すること（2014年度以前入学生は在学中1回以上履修すること）。ただし、副指導教授の「研究指導」の単位のうち修了要件の単位への算入は4単位を上限とする。
- 「講義」は、在学中1回のみ履修・単位修得することができる（よって、同一科目を2回以上履修・単位修得することはできない）。
- 経済学専攻内他コースの授業科目も履修することができる。この場合、事前に科目担当者の許可を得ること。この単位は、修了要件の単位に充当する。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得し、修了単位に充当することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得することができる。2回目以降の履修・聴講は、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

博士後期課程

授業科目・研究指導						講義・演習の別	職名	担当教員	備考
2014年度以前 入学生適用	単位	2015年度以降 入学生適用	単位	相 ナバリング	学期				
研 究 指 導 I		研 究 指 導 I A		REG701	春		教 授	佐々木 啓 介	
		研 究 指 導 I B		REG702	秋				
研 究 指 導 II		研 究 指 導 II A		REG703	春		教 授	郝 仁 平	
		研 究 指 導 II B		REG704	秋				
研 究 指 導 III		研 究 指 導 III A		REG705	春		教 授	門 間 麻 紀	
		研 究 指 導 III B		REG706	秋				
研 究 指 導 IV		研 究 指 導 IV A		REG707	春		教 授	大 野 裕 之	
		研 究 指 導 IV B		REG708	秋				
研 究 指 導 V		研 究 指 導 V A		REG709					本年度休講
		研 究 指 導 V B		REG710					
研 究 指 導 VI		研 究 指 導 VI A		REG711	春		教授(兼任)	中 北 徹	
		研 究 指 導 VI B		REG712	秋				
研 究 指 導 VII		研 究 指 導 VII A		REG713	春		教 授	道 重 一 郎	
		研 究 指 導 VII B		REG714	秋				
研 究 指 導 VIII		研 究 指 導 VIII A		REG715	春		教 授	浅 野 清	
		研 究 指 導 VIII B		REG716	秋				
研 究 指 導 IX		研 究 指 導 IX A		REG717	春		教 授	城 川 俊 一	
		研 究 指 導 IX B		REG718	秋				
研 究 指 導 X		研 究 指 導 X A		REG719	春		教授(兼任)	山 田 肇	
		研 究 指 導 X B		REG720	秋				
研 究 指 導 XI		研 究 指 導 XI A		REG721	春		教授(兼任)	松 原 聡	
		研 究 指 導 XI B		REG722	秋				
研 究 指 導 XII		研 究 指 導 XII A		REG723	春		教 授	今 村 肇	
		研 究 指 導 XII B		REG724	秋				
研 究 指 導 XIII		研 究 指 導 XIII A		REG725	春		教 授	鈴 木 孝 弘	
		研 究 指 導 XIII B		REG726	秋				
研 究 指 導 XIV		研 究 指 導 XIV A		REG727	春		教授(兼任)	小 川 芳 樹	
		研 究 指 導 XIV B		REG728	秋				
研 究 指 導 XV		研 究 指 導 XV A		REG729	春		教 授	山 谷 修 作	
		研 究 指 導 XV B		REG730	秋				

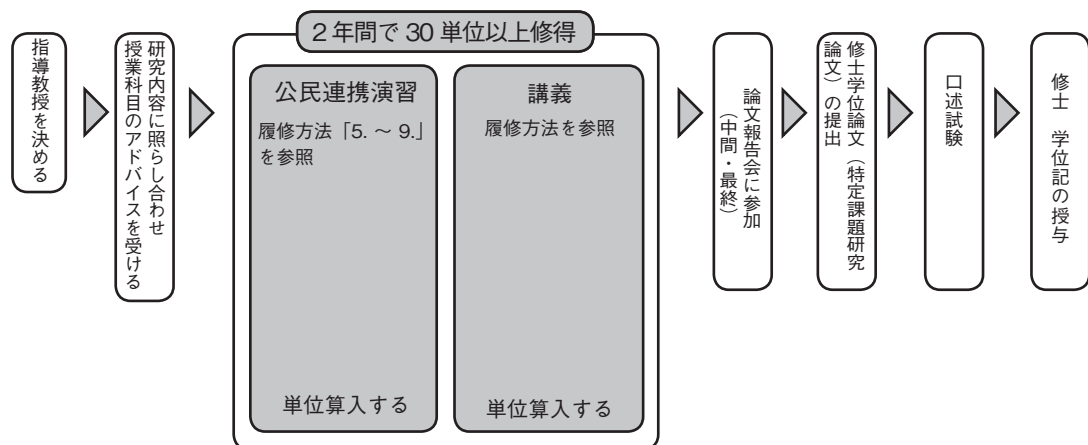
履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ（年度）毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・単位修得（0単位）することができる。
- 主指導教授の「研究指導」は、毎セメスタ（年度）必ず履修すること。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学その他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回のみ単位修得することができる。2回目以降の履修・聴講は、成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。

公民連携専攻

修士課程

履修の流れ



公 民 連 携 専 攻

修士課程

	授業科目・研究指導	相 ナシ ナシ	単位		講義・ 演習の別	英語	職 名	担当教員	備 考
			春	秋					
選択必修科目	1セメスタ対象	公民連携演習Ⅰ①	REG601	2	2	演習		教授 中北 徹	
		公民連携演習Ⅰ②	REG602	2	2	演習		教授 山田 肇	
		公民連携演習Ⅰ③	REG603	2	2	演習		准教授 松崎 大介	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅰ④	REG604			演習			本年度休講
		公民連携演習Ⅰ⑤	REG605	2	2	演習		教授 川崎 一泰	
		公民連携演習Ⅰ⑥	REG606	2	2	演習		教授 根本 祐二	
		公民連携演習Ⅰ⑦	REG607	2	2	演習		客員教授 関 幸子	
		公民連携演習Ⅰ⑧	REG608	2	2	演習	*4	特任教授 サム田 測	
		公民連携演習Ⅰ⑨	REG609	2	2	演習		客員教授 金谷 隆正	
		公民連携演習Ⅰ⑩	REG610	2	2	演習		客員教授 南 学	
		公民連携演習Ⅰ⑪	REG611	2	2	演習		教授 根本 祐二	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅰ⑫	REG612	2	2	演習		客員教授 五十嵐 誠	
		公民連携演習Ⅰ⑬	REG613	2	2	演習	*1	教授 小川 芳樹	
		公民連携演習Ⅰ⑭	REG614	2	2	演習	*4	客員教授 美原 融	
	2セメスタ対象	公民連携演習Ⅱ①	REG615	2	2	演習		教授 中北 徹	
		公民連携演習Ⅱ②	REG616	2	2	演習		教授 山田 肇	
		公民連携演習Ⅱ③	REG617	2	2	演習		准教授 松崎 大介	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅱ④	REG618	2	2	演習			本年度休講
		公民連携演習Ⅱ⑤	REG619	2	2	演習		教授 川崎 一泰	
		公民連携演習Ⅱ⑥	REG620	2	2	演習		教授 根本 祐二	
		公民連携演習Ⅱ⑦	REG621	2	2	演習		客員教授 関 幸子	
		公民連携演習Ⅱ⑧	REG622	2	2	演習	*4	特任教授 サム田 測	
		公民連携演習Ⅱ⑨	REG623	2	2	演習		客員教授 金谷 隆正	
		公民連携演習Ⅱ⑩	REG624	2	2	演習		客員教授 南 学	
		公民連携演習Ⅱ⑪	REG625	2	2	演習		教授 根本 祐二	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅱ⑫	REG626	2	2	演習		客員教授 五十嵐 誠	
		公民連携演習Ⅱ⑬	REG627	2	2	演習	*1	教授 小川 芳樹	
		公民連携演習Ⅱ⑭	REG628	2	2	演習	*4	客員教授 美原 融	
	3セメスタ対象	公民連携演習Ⅲ①	REG629	2	2	演習		教授 中北 徹	
		公民連携演習Ⅲ②	REG630	2	2	演習		教授 山田 肇	
		公民連携演習Ⅲ③	REG631	2	2	演習		准教授 松崎 大介	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅲ④	REG632	2	2	演習			本年度休講
		公民連携演習Ⅲ⑤	REG633	2	2	演習		教授 川崎 一泰	
		公民連携演習Ⅲ⑥	REG634	2	2	演習		教授 根本 祐二	
		公民連携演習Ⅲ⑦	REG635	2	2	演習		客員教授 関 幸子	
		公民連携演習Ⅲ⑧	REG636	2	2	演習	*4	特任教授 サム田 測	
		公民連携演習Ⅲ⑨	REG637	2	2	演習		客員教授 金谷 隆正	
		公民連携演習Ⅲ⑩	REG638	2	2	演習		客員教授 南 学	
		公民連携演習Ⅲ⑪	REG639	2	2	演習		教授 根本 祐二	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅲ⑫	REG640	2	2	演習		客員教授 五十嵐 誠	
		公民連携演習Ⅲ⑬	REG641	2	2	演習	*1	教授 小川 芳樹	
		公民連携演習Ⅲ⑭	REG642	2	2	演習	*4	客員教授 美原 融	
	4セメスタ対象	公民連携演習Ⅳ①	REG643	2	2	演習		教授 中北 徹	
		公民連携演習Ⅳ②	REG644	2	2	演習		教授 山田 肇	
		公民連携演習Ⅳ③	REG645	2	2	演習		准教授 松崎 大介	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅳ④	REG646	2	2	演習			本年度休講
		公民連携演習Ⅳ⑤	REG647	2	2	演習		教授 川崎 一泰	
		公民連携演習Ⅳ⑥	REG648	2	2	演習		教授 根本 祐二	
		公民連携演習Ⅳ⑦	REG649	2	2	演習		客員教授 関 幸子	
		公民連携演習Ⅳ⑧	REG650	2	2	演習	*4	特任教授 サム田 測	
		公民連携演習Ⅳ⑨	REG651	2	2	演習		客員教授 金谷 隆正	
		公民連携演習Ⅳ⑩	REG652	2	2	演習		客員教授 南 学	
		公民連携演習Ⅳ⑪	REG653	2	2	演習		教授 根本 祐二	[遠隔専門]
		公民連携演習Ⅳ⑫	REG654	2	2	演習		客員教授 五十嵐 誠	
		公民連携演習Ⅳ⑬	REG655	2	2	演習	*1	教授 小川 芳樹	
		公民連携演習Ⅳ⑭	REG656	2	2	演習	*4	客員教授 美原 融	

公 民
連 携

	授業科目・研究指導	サブタイトル	相 手 ナ ン バ ー ン グ	単 位 春 秋	講義・演習の別	英語	職 名	担当教員	備 考
※ ※ 選 択 科 目	PPP 総 論 I		PPF601	2	講 義		教 授	根 本 祐 二	2014年度以前入学生は必修
	PPP 総 論 II		PPF602	2	講 義		教 授	根 本 祐 二	2014年度以前入学生は必修
	経 済 学 基 礎		ECT601	2	講 義		教 授	川 崎 一 泰	
	公 共 経 済 学		PPF603	2	講 義		教 授	松 原 聡	(隔年開講)
	政 策 評 価 論		PPF604		講 義				本年度休講 (隔年開講)
	PPP 経 済 理 論		ECT602	2	講 義		教 授	加 賀 見 一 彰	
	金 融 論 基 礎		MOF601	2	講 義		教 授	中 北 徹	
	地 域 金 融 論		MOF602		講 義				本年度休講
	PPP ファイナンス論		MOF603	2	講 義		客員教授	金 谷 隆 正	
	財 政 学 基 礎		PPF605	2	講 義		准教授	松 崎 大 介	
	日本の経済財政		PPF606	2	講 義		客員教授	坪 内 浩	
	PPP ビジネスマネジメント論		MAN601	2	講 義		客員教授	中 村 賢 一	
	財 務 分 析 論		ACC601		講 義				本年度休講
	知的財産マネジメント論		ECP601	2	講 義		教 授	山 田 肇	(隔年開講)
	PPP 論文研究		SEM601	2	講 義		客員教授	五十嵐 誠	
	PPP 制度手法論		ECP602	2	講 義		客員教授	美 原 融	
	環 境 経 済 学		ECP603	2	講 義		教 授	小 川 芳 樹	
	エネルギー経済論		ECP604	2	講 義		教 授	小 川 芳 樹	
	PPP プロジェクト演習①		SEM602	2	講 義		特任教授	サ ム 田 渕	
	PPP プロジェクト演習②		SEM603	2	講 義		特任教授	サ ム 田 渕	
	PPP デザイン論		PPF607	2	講 義		客員教授	片 桐 徹 也	
	海外PPP実務演習①		SEM604	2	講 義	*2	非常勤講師	難 波 悠	注1
	海外PPP実務演習②		SEM605	2	講 義	*2	非常勤講師	難 波 悠	注1
	PPP Omnibus Lecture Series ①		PPF608	2	講 義	*1			本年度休講 (オムニバス形式)
	PPP Omnibus Lecture Series ②		PPF609	2	講 義	*1	非常勤講師	難 波 悠	オムニバス形式
選 択 科 目	シ ティ・マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	シティ・マネジメントⅠ	日本の地方行財政制度	PPF614	2	講 義	客員教授	南 学	
		シティ・マネジメントⅡ	地 域 リ ー ダ ー 論	POL601	2	講 義	客員教授	関 幸 子	
		シティ・マネジメントⅢ	FSU 連携科目: 世界のシティ・マネジメント	PPF615	2	講 義	特任教授	サ ム 田 渕	集中講義
		シティ・マネジメントⅣ	バランスバジェット手法実践	PPF616	2	講 義	特任教授	サ ム 田 渕	
		シティ・マネジメントⅤ	公共施設・インフラマネジメント	PPF617	2	講 義	教 授	根 本 祐 二	
		シティ・マネジメントⅥ	地 域 情 報 化	ECP606		講 義			本年度休講 (隔年開講)
	G l o b a l P P P C o u r s e	Global PPP I	海外 PPP 制度手法論	ECP605	2	講 義	*3 客員教授	美 原 融	本年度は日本語で開講
		Global PPP II	国連 PPP 推進局連携科目: 世界の PPP 政策	PPF610	2	講 義	*3 特任教授	サ ム 田 渕	本年度は原則英語で開講
		Global PPP III	English Presentation	SEM606	2	講 義	*1 講 師	ジョセフ E. リング	
		Global PPP IV	Global PPP Finance	MOF604	2	講 義	*2		開講予定
		Global PPP V	Asian Economy	PPF611	2	講 義	*2 非常勤講師	姜 雪 潔	
		Global PPP VI	世界のインフラ PPP	PPF612	2	講 義	*3 客員教授	中 村 賢 一	本年度は日本語で開講
		Global PPP VII	P P P T h e o r y	PPF613	2	講 義	*1 非常勤講師	難 波 悠	
	P a d d i t i o n a l B u s i n e s s C o u r s e	PPP ビジネスⅠ	PPP ケーススタディ	MAN602	2	講 義	客員教授	五十嵐 誠	
		PPP ビジネスⅡ	NCPPP 連携科目: 世界の PPP ビジネス	MAN603	2	講 義	特任教授	サ ム 田 渕	
		PPP ビジネスⅢ	PPP ビジネスモデル	MAN604	2	講 義	客員教授	阿 部 仁 志	
		PPP ビジネスⅣ	PPP プランニング論	MAN605	2	講 義	客員教授	金 谷 隆 正	
		PPP ビジネスⅤ	まちづくりビジネス論	MAN606	2	講 義	客員教授	矢 部 智 仁	
		PPP ビジネスⅥ	財 務 計 画 論	MAN607	2	講 義	客員教授	五十嵐 誠	

※は、2015年度以降入学生推奨科目 (詳細は、p.176「履修方法」4を参照)

注1 海外 PPP 実務演習

<履修要件>

①以下の機関、もしくはこれらの機関と契約しているコンサルタント、サプライヤー、請負等の民間企業、非営利団体の海外 PPP 担当スタッフであること

公
民
携

- ・国連、世銀、アジア開発銀行、アフリカ開発銀行等の国際機関
 - ・外国政府
 - ・内閣府、外務省、在外公館、JICA、JBIC、DBJ、日本プロジェクト産業協議会等の日本において対外的PPP活動を行っている機関
 - ・その他海外でのPPPプロジェクトに携わっている企業等
- ② PPP総論Ⅰの単位またはPPP Theoryの単位を取得済みもしくは同等の知識を有すると認められること。
- ③ 上記活動を、遠隔システムまたは電子メール等により担当教員に定期的（月1回程度）に報告し指導を受ける。

英語*1 常時（英語開講）：外国人履修者の有無にかかわらず常に英語で開講する。

英語*2 原則（英語開講）：英語による講義を希望する外国人が履修する場合は英語で開講し、そうでない場合は日本語で開講する。

英語*3 隔年（英語開講）：日本語開講と原則英語開講を隔年で実施する。

英語*4 混合（開講）：演習において英語による講義を希望する外国人が履修する場合は日本語、英語の混合で開講する。

履修方法

- 履修する授業科目は入学時ガイダンス、主指導教授の指示を受けて決定すること。
- 修了に必要な単位数は合計30単位以上とする。
- 同一名称の講義科目は、複数回履修・単位取得でき、修得した単位はすべて修了単位として認められる。ただし、授業運営上、履修登録を制限することがある。
- 「PPP総論Ⅰ」および「PPP総論Ⅱ」は、本専攻において必要とされる基本的な知識の習得を目的とするものであり、履修が推奨される。
- 主指導教授は、「公民連携演習」科目担当教員から1名決定すること。主指導教授の演習は、原則として毎セメスタ履修すること。ただし、主指導教授の演習と同時限に開講されている講義科目を履修するなど主指導教授が指導上必要と認めた場合は、この限りではない。
- 副指導教授は、主指導教授の助言を得て1名または2名決定すること。副指導教授は、当該年度に「公民連携演習」または講義科目を開講している専任教員（教授・特任教授）または客員教授から決定すること。
- 主または副指導教授以外の「公民連携演習」は履修することができない。
- 「公民連携演習」は、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に原則毎セメスタ履修すること。長期履修学生および5セメスタ以上在学する場合（Ⅰ～Ⅳを修得済み）は再度Ⅳを履修すること。
- 主または副指導教授は、各人の希望および教育的配慮に基づいてセメスタごとに変更できる。
- 修了には、修士学位論文または特定課題研究論文の作成、報告会への参加（中間、最終）および口述試験合格が必須である。書式等に関しては下表を参照すること。
- 本表に掲げたものの他、指導教授が教育研究上必要と認めるときは、本学の他研究科・専攻の授業科目を10単位まで単位修得することができる（同一名称の科目は1回目のみ修了単位に充当することができ2回目以降の履修によって修得した成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
- 本専攻が開講する講義・演習は本専攻以外の学生が履修することはできない。

	修士論文	特定課題研究
趣 旨	公民連携に関連するテーマに関する考察	
目 的	「広い視野に立って精深な学識を授け専攻分野における研究能力を培う」（大学院設置基準第3条）という修士課程の趣旨に沿ったものであること	企業、政策官庁、自治体などに対して提案し相手方に検討を促すものであること
審査項目	以下を総合的に判断する 1 独創性（課題の把握・整理方法、解決方法の独創性） 2 論理的・一貫性（解決方法の合理性、論証による説得力、一貫性） 3 理論的発展性（公民連携の制度や手法に対する発展性） 4 適時性（公民連携一般の抱える課題や、提案先が抱える課題への適時性） 5 応用可能性（社会的貢献性）（課題解決に当たり検討すべき諸問題の考察、提案の実現可能性）	
形 式	論文形式	
文 字 数	目安として60,000字程度以上	目安として40,000字程度以上